
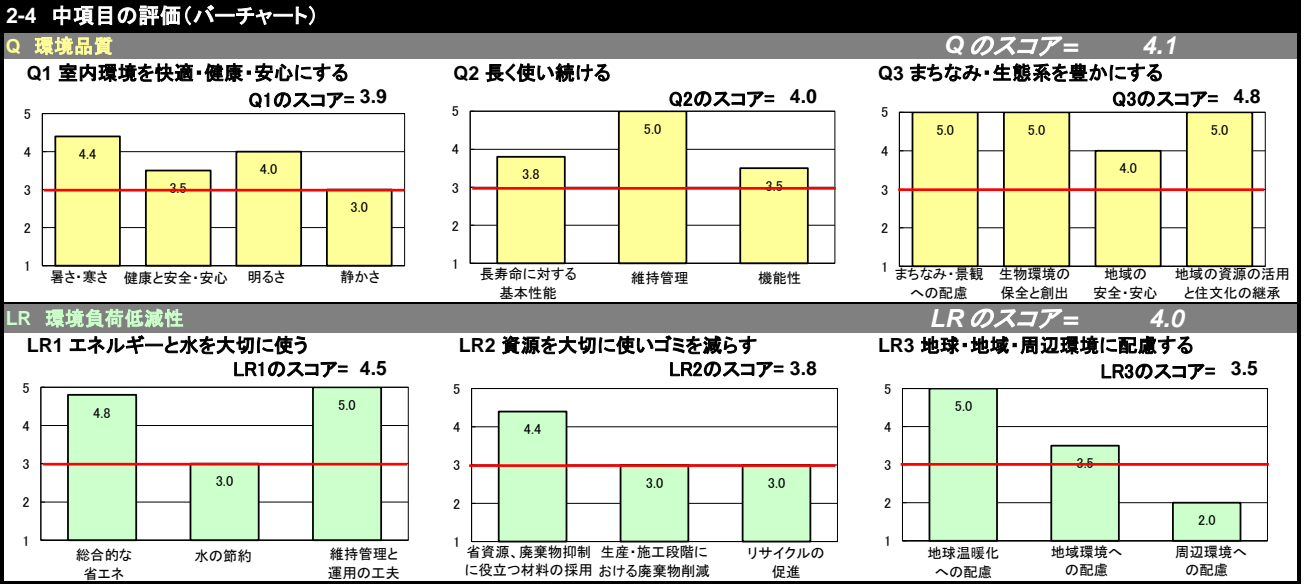
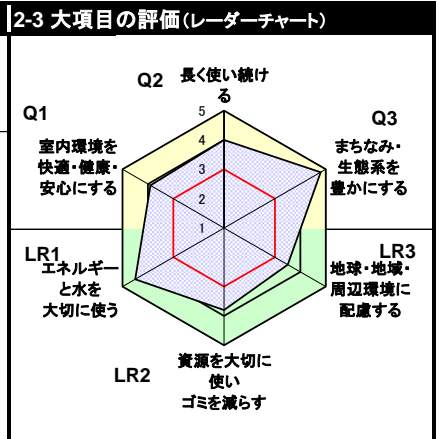
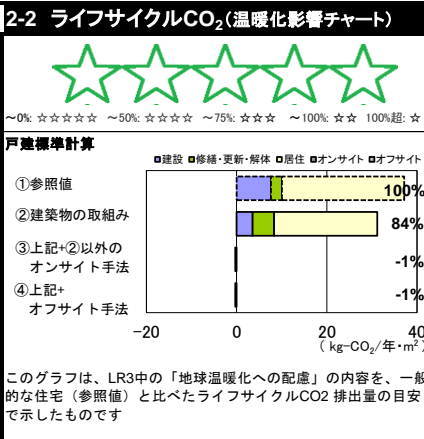
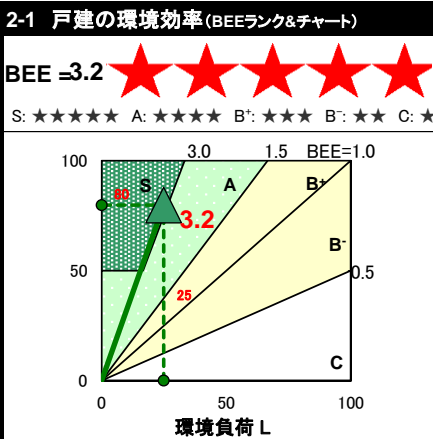


CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	万江様邸新築工事	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2021年12月	竣工	持ち込み家電等	確定	
建設地	熊本市中央区帯山3丁目1818-55	確定	外構の仕様	確定	
用途地域	第1種中高層住居専用地域	確定	<備考>		
省エネルギー地域区分	7 地域				
構造・構法	木造軸組 一部鉄骨造	確定			
階数	2				
敷地面積	212 m ²	確定	評価の実施日	2022年5月6日	
建築面積	129 m ²	確定	作成者	月原ちさと	
延床面積	185 m ²	確定	確認日		
世帯人数	2	確定	確認者		



3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>石油製品の仕様を極力抑え、自然素材を生かした設計とした。</p> <p>景観や周辺環境に配慮し、外壁の色を土色にし、外構に用いる塀は木格子で行い、落ち着いた佇まいとした。</p> <p>また、敷地いっぱい建物に配置するのではなく、道路面の圧迫感がないよう、庇を設けた。敷地北側の住宅の日照に配慮し、片流れ屋根に比べ、太陽光発電パネルの搭載可能面積が減少するが切妻屋根とし、また建物高さも極力抑えた。</p>	
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>断熱性に配慮し、BELSのZEH基準に適合する仕様とした。</p> <p>LDKは木製サッシ、LDK、廊下の壁は、チャフウォール、寝室は和紙クロス、LDKに大工の手刻の化粧登梁を取り入れ、室内環境の快適・健康・安心・温もりに配慮した。</p>	
<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>長期優良住宅に適合し、耐震等級3を満たす構造とすることで、住宅の耐久性を確保した。</p> <p>経年美を楽しめるよう、床材に、木の無垢板を使用した。</p> <p>LDK及び廊下の壁は、施工自ら補修が行える素材とした。</p>	
<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>外部の色彩は周辺環境との調和を図り、接道部に杉板の木塀を用いて、設備機器を目立たなくし、景観への配慮を行った。2階バルコニーは一部庇とし圧迫感を抑え、大屋根は太陽光パネルを搭載しているが切妻屋根とし北側住戸に配慮した。</p>	
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>太陽光発電を搭載し、再生化のエネルギーを創出している。</p> <p>電気自動車用蓄電池とし、太陽光発電の余剰分のストック、非常用電源として計画とした。</p> <p>照明計画では、全てLEDライトとし、適切にセンサー付き照明を用いることで、省エネルギー化を図った。</p>	
<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>構造材には、国産材である桧、杉、赤松を用いた。</p> <p>外装及び内装は仕上材、下地材共に地域材やリサイクル材等を使用し、省資源、廃棄物抑制に配慮した。</p>	
<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>生ごみ処理機を設置し、また分別ごみのストックスペースを合計2ヶ所確保した。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	万江様邸新築工事		仕様の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 確定 確定
竣工年月	2021年12月	竣工	<備考>		
建設地	熊本市中央区帯山3丁目1818-55				
用途地域	第1種中高層住居専用地域	確定	評価の実施日 2022年5月6日		
省エネルギー地域区分	7地域				
構造・構法	木造軸組 一部鉄骨造	確定	作成者 月原ちさと		
階数	2				
敷地面積	212 m ²	確定	確認日		
建築面積	129 m ²	確定			
延床面積	185 m ²	確定	確認者		
世帯人数	2	確定			



2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境効率チャート: BEE 3.2 (目標 2.5)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

戸建標準計算

① 参照値: 100%
② 建築物の取組み: 84%
③ 上記+②以外のオンサイト手法: -1%
④ 上記+オフサイト手法: -1%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.1
4(教育)	1.8
5(ジェンダー)	2.0
6(水・衛生)	2.0
7(エネルギー)	3.0
8(経済・雇用)	2.1
9(イノベーション)	3.0
11(都市)	2.7
12(生産・消費)	2.6
13(気候変動)	2.5
15(陸上資源)	2.7
17(実施手段)	2.3

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 4.1

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする
Q1のスコア = 3.9

Q2 長く使い続ける
Q2のスコア = 4.0

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
Q3のスコア = 4.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.0

LR1 エネルギーと水を大切に使う
LR1のスコア = 4.5

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす
LR2のスコア = 3.8

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する
LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合 石油製品の仕様を極力抑え、自然素材を生かした設計とした。景観や周辺環境に配慮し、外壁の色を土色にし、外構に用いる塀は木格子で行い、落ち着いた佇まいとした。また、敷地いっぱいには建物を配置するのではなく、道路面の圧迫感が無いよう、庇を設けた。敷地北側の住宅の日照に配慮し、片流れ屋根に比べ、太陽光発電パネルの搭載可能面積が減少するが切妻屋根とし、また建物高さも極力抑えた。</p>		
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする 断熱性に配慮し、BELSのZEH基準に適合する仕様とした。LDKは木製サッシ、LDK、廊下の壁は、チャフウォール、寝室は和紙クロス、LDKに大工の手刻の化粧登梁を取り入れ、室内環境の快適・健康・安心・温もりに配慮した。</p>	<p>Q2 長く使い続ける 長期優良住宅に適合し、耐震等級3を満たす構造とすることで、住宅の耐久性を確保した。経年美を楽しめるよう、床材に、木の無垢板を使用した。LDK及び廊下の壁は、施工主自ら補修が行える素材とした。</p>	<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする 外部の色彩は周辺環境との調和を図り、接道部に杉板の木塀を用いて、設備機器を目立たなくし、景観への配慮を行った。2階バルコニーは一部庇とし圧迫感を抑え、大屋根は太陽光パネルを搭載しているが切妻屋根とし北側住戸に配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う 太陽光発電を搭載し、再生化のエネルギーを創出している。電気自動車用蓄電池とし、太陽光発電の余剰分のストックと、非常用電源として計画とした。照明計画では、全てLEDライトとし、適切にセンサー付き照明を用いることで、省エネルギー化を図った。</p>	<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす 構造材には、国産材である桧、杉、赤松を用いた。外装及び内装は仕上材、下地材共に地域材やリサイクル材等を使用し、省資源、廃棄物抑制に配慮した。</p>	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する 生ごみ処理機を設置し、また分別ごみのストックスペースを合計2ヶ所確保した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE₀₁、Q₀₁、LR₀₁などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
 ■「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q₀₂、LR₀₁中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)
 ■ライフサイクルCO₂の算定条件等については、マニュアルおよび「CO₂計算」シートを参照されたい